
魔法に出会ってー

早乙女 椎那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法に出会って――

【Nコード】

N5383J

【作者名】

早乙女 椎那

【あらすじ】

魔法が使える少女、森下マミ。イキナリ、会ったことのない、外国人のマーヤの家へ連れて行かれた。マーヤはマミのおばあちゃん、マーヤも魔法を持ってるという…。マミの将来は…？

1、知らない家（前書き）

だいぶ昔に、「魔法に出会って――」を書いたのですが、なくなつてしまい、もう一度書こうと、挑戦したんですが、全然ちがう話になりそうです…

1、知らない家

魔法…私にあるとは思わなかった。

「知ってた？マミ。お母さんとあなたには、魔法があるの」

急に言ってきた、お母さん。

私は信じられないまま、お母さんの運転する車に座って外をぼーっと見る。

どこに向かつてるか、分かんない。

お母さんは教えてくれない。

聞いても、「行ってから教えるわ」と言うだけ。

私は知らず知らずのうちに、眠っていたみたいで、目をあけると、もう目的地についているみたいだ。

「あ、マミ。起きたの？今日から、ここがあなたのお家」

「え？私の家？」

見るからにカナリでかい家。

初めてみた。こんな大きな家。

その家の前に、知らない人が立っていた。

「誰…？」

「あ、あの人は、私のお母さん…いわゆる、マミのおばあちゃん。

「マーヤって言うのよ。『おばあちゃん』って呼ぶより、『マーヤ』って呼んだ方がいいわ」

「え、あ、うん…」

何でだろ…。

マーヤは外国の人らしくて、お母さんのお父さんは日本人。

お母さんがハーフって初めて知った…。

私の家族って謎だらけかも。

「あ、心配しなくてもいいわ。マーヤはちゃんと日本語が喋れるから」

「うん…」

「マーマ、久しぶり」

「久しぶりだねえ。何年振りだろう…」

少し、話し方がきこえない。

しょうがないか…外国人だもんね。

「この子はあたしの娘のマミ。よろしく頼むよ」

「大丈夫じゃ」

見た目は若い、マーマは喋り方がちょっと老けてる気がする…。

「じゃあ、お母さんは帰るね。元気にしてるのよ」

「え!？」

お母さんも一緒じゃないの？

てか、私マーマの家にいるの!?

「週に1回は、来るから大丈夫。学校なら心配いらないわ。ここから一番近い学校に行けるようにしといたから」

お母さんは、小声でそういう。

そういう問題じゃ……。

「じゃあ、頼むわよ、マーマ」

「うむ」

お母さんは車に乗っていつてしまった。

どういうこと??

意味分かんない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5383j/>

魔法に出会ってー

2010年10月20日19時18分発行